

津波・大規模風水害対策車

披露及び運用開始式



日時 平成 26 年 5 月 26 日 (月)

午前 9 時から

場所 海南こどもの国 園内

津波・大規模風水害対策車披露及び運用開始式次第

1 開会

2 管理者式辞

3 津波・大規模風水害対策車両及び資器材 展示説明

4 水陸両用車 記念走行

管理者（飛島村長）、副管理者（弥富市長）、

愛知県海部県民センター長、愛知県防災局消防保安課長 乗車

5 水陸両用車 陸上及び水上走行実演

6 運用開始報告

7 閉会

津波・大規模風水害対策車について

東日本大震災の津波災害や各地で発生している大規模風水害において、冠水地域における効果的な人命救助活動をどうするかが課題となりました。

総務省消防庁は、東日本大震災において救助活動をした隊員の意見を踏まえ、水陸両用車等の救助資機材を積載し、津波や大規模風水害による冠水地域の人命救助活動に特化した特殊車両を整備しました。

海部南部消防組合管内は、南海トラフ巨大地震などによる津波や大規模風水害の発生が危惧される地域であることなどを踏まえ、当組合に配備されることとなりました。

津波・大規模風水害対策車両及び資機材について



津波・大規模風水害対策車

この車両は、全長約9メートル、幅約2.5メートル、高さ約3.5メートル、重さ約10トンで5人乗りです。水陸両用車やボートに加え、隊員が現場で着用するドライスーツ等の機材などを搭載しています。



水陸両用車

搭載される水陸両用車は8輪で、全長約3メートル、幅約1.5メートル、全高約2メートル(ガードパイプ含む。)、重さ640キロです。陸上では6人乗りで、水上では4人乗りとなります。



ゴム製ボート

全長約3.8メートル、幅約1.61メートル、重さ約78キロで6人乗りです。

アルミロールアップフロアを採用することにより、スピーディーな組み立てができ、可搬性と収納性に優れています。



FRP製ボート

全長約3.45メートル、幅約1.6メートル、深さ0.55メートル、重さ約80キロで5人乗りです。カタマラン(双胴船)型で、水位の低い場所や漂流物が多い場所でも航行が可能です。

平成 25 年度 津波・大規模風水害対策車 配備先

都道府県	配備先	都道府県	配備先
北海道	苫小牧市消防本部	岩手県	北上地区消防組合消防本部
茨城県	日立市消防本部	神奈川県	平塚市消防本部
新潟県	新潟市消防局	富山県	富山県東部消防組合消防本部
愛知県	海部南部消防組合消防本部	大阪府	大阪市消防局
兵庫県	神戸市消防局	和歌山県	和歌山市消防局
島根県	江津邑智消防組合消防本部	岡山県	岡山市消防局
徳島県	徳島市消防局	熊本県	八代広域行政事務組合消防本部
沖縄県	那覇市消防本部		

緊急消防援助隊（Emergency Fire Response Teams）とは

緊急消防援助隊は、阪神・淡路大震災を教訓に、全国の消防機関による応援を速やかに実施するため、平成7年度に創設されました。

平成16年4月には、消防組織法により法律に基づいた部隊となり、平成26年4月現在では、全国の消防本部から4,694部隊が登録されています。

緊急消防援助隊は、指揮支援部隊・都道府県隊指揮隊・消火部隊・救助部隊・救急部隊・後方支援部隊・特殊災害部隊・特殊装備部隊・航空部隊・水上部隊と多岐にわたる精鋭部隊から構成されています。

緊急消防援助隊の主な出動事例 平成16年以降

☆ 福井豪雨（平成16年7月18日）

- ・ 台風第23号兵庫県豊岡市水害（平成16年10月21日）
- ・ 新潟県中越地震（平成16年10月23日） 震度7
- ・ JR西日本福知山線列車事故（平成17年4月25日）
- ・ 能登半島地震（平成19年3月25日） 震度6強
- ・ 三重県中部を震源とする地震（平成19年4月15日） 震度5強
- ・ 新潟県中越沖地震（平成19年7月16日） 震度6強
- ・ 岩手・宮城内陸地震（平成20年6月14日） 震度6強
- ・ 駿河湾を震源とする地震（平成21年8月11日） 震度6弱

☆ 東日本大震災（平成23年3月11日） 震度7

- ・ 台風第26号伊豆大島土砂災害（平成25年10月11日）

※ ☆印は、海部南部消防組合が出動した事例